



UNIC Tokyo Dateline UN

April 2004 Vol.49

国際連合広報センター

ホームページ国連 on line、 リニューアル・オープン！

～さらに見やすくなりました～



visit us at <http://www.unic.or.jp>

国連広報センターのウェブサイト“国連 on line”がこの春リニューアルし、多くの利用者の皆さまよりご好評いただいています。

サイト上部にカテゴリー別の**クリックボタン**①を新たに設け、知りたい情報にいち早くアクセスできるようになりました。**サーチエンジン**②を使えば、キーワード検索も可能です。

中でもお勧めは、国連がいま直面している世界のさまざまな問題をわかりやすく解説した「**野村所長の国連報告**」③。毎月1回、最新情報を声でお届けしています。

まだ利用したことのない方も、新しくなった国連 on lineへぜひアクセスしてください！

INSIDE

ハント国連総会議長、来日	2-3
ルワンダのジェノサイド10周年	4
エーゲラン国連事務次長、来日	5
水と国連： 水と衛生に関する諮問委員会 「命のための水」国際の10年	6-7
トピックス@UN	
国連本部を舞台にした映画	7
交通安全がテーマの国連切手	7
最新資料紹介ほか	7
UN ギャラリー：ILO 写真展	8

<http://www.unic.or.jp/>

ハント 国連総会議長、来日

President of the 58th Session of the United Nations General Assembly

～国連改革、イラク問題について日本政府と意見交換～

第58会期（注）国連総会のジュリアン・ロバート・ハント議長が、3月29日から4月1日まで、日本政府の招きで来日しました。

小泉純一郎首相、川口順子外相とそれぞれ会談したのをはじめ、外務、農水両省幹部との意見交換や自民党の「国連貢献議員連盟」との朝食会に臨みました。さらに新幹線で桜が見ごろの京都を訪れ、裏千家今日庵で千玄室・前家元（日本国連協会会長）によるお茶のもてなしを受け、桂離宮や金閣寺を見学するなど、あわただしい日程のなか古都の春を楽しみました。

首相官邸での小泉首相との会談では、イラク情勢が取り上げられました。首相が「イラク戦争の開戦にあたっては意見が分かれた国際社会も、イラクの再建・復興が必要であるという点では考えが一致していると思う。国連の役割も非常に大きい」と述べたのに対し、ハント議長も「確かにイラクの復興は国際社会全体の問題で、国連もイラクの人々が再び自分の足で立つことができるよう、しかるべき役割を果たさなければならない」と応じました。

首相が「多数の犠牲者を出した昨年8月の国連施設に対するテロのあと国連スタッフがイラクから引き上げたのは残念だ」「国連が活動を再開するには治安が心配だ」という意見があるが、国連が戻ることによってより安全になるという考え方もできる」とイラクでの国連活動の再開を求めたのに対し、ハント議長は「国連もいずれ当然、活動を再開することになる」と述べ、国連職員の安全確保のためにも、



第58回国連総会の初日にアナン事務総長と握手を交わすハント総会議長（右）
©UN/DPI Photo by Mark Garten

「国連は中立の立場であって占領軍の一部ではないことをイラクの人々にわかってもらわなければならない」と指摘しました。

首相は、日本政府としてはイラクの復興支援だけでなく、国連活動とも関わるHIV/エイズ対策や環境対策への支援も進める方針を述べ、ハント議長はそうした日本の支援を評価しました。小泉首相がさらに、国連憲章の条文に第二次大戦で連合軍と戦った日

本やドイツを指すいわゆる「敵国条項」が残っていることを話題にすると、ハント議長は「あの条項はあまりにも時代遅れで、残っている資格はない」と削除されるべきだとの考えを示しました。

このあと外務省における川口外相との会談では国連改革がテーマになり、ハント議長は「国連は再活性化と改革のときを迎えている」との認識を示しました。

外相が安全保障理事会を現在の国際社会を反映した姿に改革する必要があること、「義務と責任との間に適正なバランスが保たれる必要がある」こと、国連活動の透明性や効率性を高める必要があることなどを強調したのに対しては、それらに同意しつつ、「日本のこれまでの国連への関わりは申し分ない」と、安保理拡大と日本の常任理事国入りに好意的な見方を示しました。

機運が高まりつつある国連改革をめぐっては、安保理だけではなく、総会の効率と機能を強め、その権威を高める必要があるという指摘もかねてからあります。これに関し

てハント議長は東京・内幸町のフォーリン・プレス・センターで開かれた内外記者会見で、「多国間主義」の重要性を強調し、総会議長として国連改革を推し進める決意であること、総会議長と安保理の議長と経済社会理事会議長との連携、協力関係について自ら改善する努力をしてきたことなどを明らかにしました。

また、2005年は国連創設60周年の節目の年にあたりと指摘して、この機会を生かして改革が実を結ぶことへの期待を表明しました。

ハント議長はカリブ海の島国セントルシアの外務・貿易・航空大臣。母国は人口わずか15万人あまりの小国です。このため、ハント議長の選出は、この地域の小国でつくるカリブ共同体（CARICOM）が共同歩調をとったとされ、今回の来日にあたって議長に同行した総会議長室官房長はバハマ出身、補佐官2人はベリーズとジャマイカの出身、警護官はセントビンセント・グレナディン出身と、5人がそれぞれ別の国の出身というユニークな一行でした。中ぐらゐの市なみの国の外相が191カ国をたばねる総会議長になり、それを地域の諸国が力を合わせて支える姿は、国連ならではといえるかもしれません。

注：国連総会第58会期は2003年9月16日に始まった。

（文・国連広報センター所長 野村彰男）

ジュリアン・R・ハント 第58回国連総会議長の略歴



©UN/DPI Photo by Stephenie Hollyman

現在、セントルシアの外務・通商・民間航空大臣を務める。

地域協力と国連における小国の役割に強い関心を寄せるハント氏は、1998-2001年にセントルシアの国連常駐大使を務めた。2002年のモンテレー国際開発資金会議では副議長、2002年のヨハネスブルクでの持続可能

な開発に関する世界サミットではセントルシアの代表団長として活躍。

地域レベルでは、カリブ共同体（CARICOM）の常設機関で指導力を発揮。2002-2003年、CARICOM加盟国間で外交政策の調整を行う「外交・共同体関係理事会」の議長を務める。2001年には、ハイチ共和国が直面する政治的・経済的課題の克服に向けた外交イニシアチブの遂行を委任され、CARICOM 調査団を率いて数回にわたってハイチを訪れるなど積極的な活動を行った。

文化と芸術にも造詣が深いハント氏は、セントルシアの歴史・文化遺産の指定と保全に当たるNGO「セントルシア・ナショナルトラスト」の共同創設者となり、20年間にわたってその総裁を務めた。

すべての加盟国で構成される

話し合いの場

国連総会はすべての加盟国が代表を送っている国連の中心的な機関です（2004年4月現在、加盟国数は191カ国）。

豊かな国も貧しい国も、大きな国も小さな国も、それぞれ1票の投票権を持って、あらゆる問題について話し合い、重要な問題は3分の2の多数決で決定されます。各国の投票権は1票ですが、その代表団は数名からなり、団長は大使クラスの外交官が務めるのが普通です。

毎年9月の第3火曜日から少なくとも3カ月間、通常総会を開催します。そのほか、特別総会が開かれることもあります。毎年、通常総会のはじめには新しい議長が選ばれます。安保理の勧告に基づいて5年ごとに事務総長を任命したり、新たな加盟国を承認したり、国連の予算を審議・承認して加盟国の分担金を割り当てるのも総会の任務です。



ニューヨーク国連本部の総会議場 ©UN/DPI Photo by Eskinder Debebe

ルワンダのジェノサイド10周年

“世界はジェノサイド防止に向けて断固たる行動を”

コフィー・アナン事務総長によるメッセージ

80万人の犠牲者を出したルワンダのジェノサイド（大量虐殺）から10年が経ちました。国連は4月7日の「ルワンダにおけるジェノサイドを考える国際デー」の正午に、全世界で1分間の黙とうを捧げるよう呼びかけました。

東京・渋谷のUNハウス前では、半旗に掲げた国連旗のもとに各機関の職員・スタッフが集まり、10年前の悲劇が二度と繰り返されることのないよう、祈りを捧げました。

【写真】ニューヨークの国連本部で行われた式典の様子。10周年を記念する写真展も開催された ©UN/DPI Photo by Eskinder Debebe



ルワンダのジェノサイド（大量虐殺）は起こってはならない事件でした。しかし、それは実際に起きてしまったのです。国連事務局、安全保障理事会、国連に加盟している国々、国際メディア、そのいずれもが大惨事の兆候が現れていることに十分な関心を払いませんでした。隣人同士が殺し合い、教会や病院といった聖域が虐殺の場と化するなかで、80万人の男女と子どもが、もっともむごい死に方をしました。国際社会はルワンダを見捨てていました。私たちは常に、そのことに対して深い後悔と悲しみを感じなければなりません。

それから10年経っても、私たちは依然としてこの衝撃を乗り越えられないでいます。国連はルワンダで、国民が立ち直り、和解できるよう、必死の取り組みを続けています。私たちは国内全土で、地雷の除去、難民の帰還、診療所や学校の復興、司法制度の構築など、多くの活動を展開しています。タンザニアでも、国連の刑事裁判所が画期的な判決を下しています。元政府首脳やジャーナリストが初めてジェノサイドで有罪となったほか、ジェノサイドの一環としてレイプが実施されたという初の判断も行いました。このような多くの措置により、国連はルワンダの人々、特に国の将来を背負う若者たちがともに新しい社会を造ることができるよう、できる限りの努力を行っています。

しかし、今日の新しいルワンダに対して、私たちは適切な時期に効果的な対応ができると言えるでしょうか。決してそうではないでしょう。しかも、ジェノサイドの危険は恐ろしいほどの現実味を帯びています。この意味で、私はジェノサイド10周年にあたり、国連システム全体を対象とする「ジェノサイド防止のための行動計画」を国連人権委員会で発表することを決めました。私たちは、最悪の事態が起きてしまうまで待つことも、ただ無意味な関心のポーズや冷酷な無関心の表明に終始することもできないのです。世界はジェノサイド防止への取り組みを強化するとともに、予防が失敗した際にはこれに終止符を打つべく、断固とした行動を取らなければなりません。

4月7日の「ルワンダにおけるジェノサイドを考える国際デー」の正午に、全世界で1分間の黙とうを捧げることは、私たちが10年前に果たせなかった連帯を実現する機会です。この1分間、今後何年にもわたって響き渡るメッセージを送るものと、私は期待しています。それは、過去を深く悔いるメッセージであると同時に、このような悲劇を二度と起こさないという誓いのメッセージにもなるでしょう。ルワンダのジェノサイドによる被害者の方々のご冥福をお祈りします。これらの方々のご犠牲により、私たちの考え方が未来永劫に変わりますように。そして、私たちすべてが、この悲劇を乗り越え、協力して共通の人間性を認識することができますように。

“見過ごされた危機への対応、それが国連の仕事”

3月14日から4日間の日程で来日したヤン・エーゲラン国連事務次長は、NHKとのインタビューに応じ、私たちが直面する国際的な課題に対応するには、単独行動主義ではなく多国間での協調が唯一の方法である、と語りました。

エーゲラン氏は2003年6月6日、アナン国連事務総長により、日本の大島賢三氏の後任として国連の人道問題担当事務次長兼緊急援助調整官に任命されました。

以下はエーゲラン氏がインタビューで語った内容です。



ヤン・エーゲラン人道問題担当国連事務次長
©UN/DPI Photo by Evan Schneider

■イラク報道に隠れたもう一つの危機

世界の報道機関は、現在のイラク問題のように人々の大きな関心事となっていることについては集中的に報道するが、それ以外のことについては大きく取り上げない、という傾向にある。このメディアの影響によって世界の関心が偏り、注目されない地域の人々に対する支援も偏ってしまっている。

たとえば、現在イラクの復興のために集められた支援金は、アフリカで過去に起きた10の危機的な問題の解決のために集められた支援金の合計とほぼ同額なのである。ウガンダ北部では、反政府勢力によって1万人の子どもたちが誘拐され、100万人が難民生活を送っている。しかし、ウガンダ政府の対応は十分なものではなく、この地域は世界で最も注目されていない地域の1つとなっている。こうした地域への支援はとても難しいのが現状である。私はできる限り彼らのように助けを必要とする人々がいる現地へ行くようにしている。今、目の前で起きている危機、そして見過ごされ忘れ去られた地域で起きている危機、私たちはこの両方に目を配り、支援をしていかななくてはならない。

■支援とリスクのバランスを考慮

2003年8月19日に起きたバグダッドの国連事務所の爆破事件は大変衝撃的な出来事だった。デメロ国連事務総長特別代表が命を落とし、また多くの仲間が負傷した。その2カ月後に私がイラクを訪れた際にはまだ国連はイラク国内で活動していたが、その後、安全確保のため国連職員はイラクから退避せざるをえなかった。

再び職員を現地に戻すため、建物、職員住居、輸送手段

の安全確保を含めた警備体制の見直しを現在行っている。安全が確保されること、それにより現地で効果的な活動が行えること、この2点を確実なものにしなければならない。国連が組織として行う支援とそれに伴うリスク、この両方のバランスを考慮に入れなくてはならない。

今回のように国連がイラクから離れるような事態は二度と起きてはならない。私たちが標的にされる時、民間人はそれ以上の脅威にさらされているのである。こういう時にこそ私たちは人道支援のために現地にとどまる必要がある。

■多国間協調が問題解決の唯一の方法

多くの国々で「単独行動主義」と呼ばれる一国での行動が目立つようになったが、私は多国間で行動することでのみ得られる成果を彼らに示したいと思う。単独行動主義では世界を動かすことはできない。国連加盟国のほとんどがアナン事務総長の方針を支持し、私たちはそれによって勇気づけられている。イラク戦争によって世界に生じた亀裂は、すでに修復されたと信じている。今後、国連を中心とする多国間主義が力を取り戻すだろう。世界の様々な問題を解決するためには、多国間での協調が唯一の効果的な方法だ。

人道問題調整事務所 (OCHA)

エーゲラン氏がトップを務める OCHA は、緊急事態に応じて国連諸機関が実施する援助活動の調整を行います。援助がどの程度必要なのかを評価するため、いち早く現地にスタッフを派遣し、諸機関の援助活動が重複しないよう調整を図ります。また、国際社会に人道問題への関心を高めるよう共同アピールを行うことも OCHA の役割です。

水と国連



©UN/DPI Photo

「持続可能な開発」の実現に向けて、国連は現在さまざまな取り組みを行っています。その成功のカギを握るのが、私たちの命を支える「水」だといわれています。世界水の日（3月22日）を迎え、水に関する新しい動きが国連の中でも活発になってきました。国連の動きをご紹介します。

水と衛生に関する諮問委員会を設置 委員長に橋本龍太郎元首相

Advisory Board on Water and Sanitation

アナン国連事務総長は2004年の「世界水の日」にあたり、「水と衛生に関する諮問委員会」の設置を発表しました。世界中の人々は貧困を根絶し、持続可能な開発を達成しようと望んでいますが、諮問委員会は、その上で中心的な存在となる水の問題について、グローバルな対応を強化することを目的としています。

この諮問委員会の委員長を務めるのが、日本の橋本龍太郎元首相です。委員会にはそのほか、幅広い有識者や技術専門家をはじめ、人々の意識を高め、政府を動かし、メディア、民間企業および市民社会との協力を図る上で経験豊富な方々が委員として参加しています。

アナン事務総長は諮問委員会に対し、委員の独特の専門知識を活かして、水と衛生の問題に対する意識の向上、水・衛生設備プロジェクトの資金調達支援、および、新たなパートナーシップの促進を図るよう求めました。

「命のための水」 国際の10年 2005-2015

International Decade for Action, "Water for Life", 2005-2015

国連は2005-2015年を「『命のための水』国際の10年」とすることを決定しました。環境の健全性や貧困と飢餓の根絶を含む持続可能な開発のためには水がきわめて重要であり、人間の健康と安寧に不可欠であることを、国際の10年を通じて再認識することが目的です。

「命のための水」国際の10年は、2005年3月22日の「世界水の日」に始まります。10年の目標は、あらゆるレベルで水関連問題をより重視し、これまで国際的に合意された水関連目標の達成をめざし、水資源開発努力への女性の参加確保を図りながら、水関連のプログラムおよびプロジェクトを実施し、協力を進めることです。

これまでの動き

- 各国首脳は2000年のミレニアム・サミットで、物理的あるいは金銭的理由により安全な飲み水を利用できない人々の割合を2015年までに半減させることを約束した。また、公平なアクセスと十分な供給を促進する水管理戦略の策定により、水資源の持続不可能な利用に歯止めをかけることも約束した。
- 2002年にはヨハネスブルクの「持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD)」で、基本的衛生設備を利用できない人々の割合を2015年までに半減する、という同様の目標が採択された。この目標により、衛生設備へのアクセスは、貧困根絶への取り組みにおいて中心的な位置を占めることになった。
- 世界の指導者たちは、2005年までに総合的な水資源管理計画と水効率計画を策定することに合意。
- 安全な飲み水を利用できない人々は11億人、基礎的な衛生設備のない人々は24億人に上ると見られる。つまり、水に関する「ミレニアム開発目標(MDGs)」を達成するには、毎日27万カ所に水道をつながなければならない。衛生設備については、その倍以上のペースでの設置が必要。

トピックス @UNHQ

◎国連を舞台にしたサスペンス映画、撮影進む

ニューヨークの国連本部では、現在、同施設を舞台としたサスペンス映画“The Interpreter”の撮影が行われています。国連本部が映画の舞台になるのはこれが初めてです。



©UN/DPI Photo by Eskinder Debebe

シャシ・タルーア広報担当国連事務次長【写真右】と同映画を監督するシドニー・ポラック氏が3月はじめ、記者会見を行いました。

この映画は、ある脅威を偶然耳にしたことから事件に巻き込まれるアフリカ出身の国連通訳者と、彼女を守るシークレットサービス捜査員を描いたサスペンス物語。主人公にオスカー女優のニコール・キッドマン、相手役に同じくオスカー男優のショーン・ペンが出演しています。

“The Interpreter”は2004年11月に全米で公開予定。

トピックス @UN ハウス

◎「交通安全」がテーマの国連切手が登場



世界では毎年ほぼ120万人が交通事故によって命を落としています。犠牲者の過半数が15～44歳という一家の大黒柱であることから、事故は当事者にとって悲劇であるばかりでなく、社会全体にも大きな打撃をもたらします。そして、こうした悲劇の多くは、自家用車を買うことでも

できない開発途上国で起こっています。

国連は世界の人々に交通安全を呼びかけようと、4月7日、国連切手を発行しました。フランス人アーティストによる6つのデザインを楽しむことができます。

当センターでは、国連切手を広く日本の皆さまに知っていただくため、UNハウス1階にポストを設け、切手の販売を行っています。また、ファクスとメールによる購入も可能ですので、ぜひご利用ください。国連切手の詳細は<http://www.unic.or.jp/stamps/stamptop.htm> まで。

トピックス @UN ライブラリー

○最新資料紹介

(ライブラリー未着につき Web でのみ閲覧可)

『第5次世界栄養状況報告』全143頁

(*Nutrition for Improved Development Outcomes*)。国連システム栄養常設委員会が2004年3月に発表。世界の貧しい人々の栄養摂取状況に多少の改善がみられるものの、その度合いは世界経済成長ペースに及ぶものではないと指摘。インターネットでダウンロード可。<http://www.unsystem.org/scn/Publications/AnnualMeeting/SCN31/SCN5Report.pdf>

○近着資料紹介 (ライブラリー所蔵、閲覧・コピー可)

『国民経済計算における未観測経済』全256頁

(*Non-Observed Economy in National Accounts / Sales No. E03.II.E.56*)

『新安全保障環境におけるグローバリゼーションの利益の共有：貿易促進への挑戦』全425頁

(*Sharing the Gains of Globalization in the New security Environment: The Challenges to Trade Facilitation / No.: E.04.II.E.3*)

○国連統計ナビ

人口、経済、貿易、薬物、女性、子どもなど、多岐にわたるテーマについて、国連はさまざまな統計資料を作っています。UNドキュメンテーション・サービスでは、利用者の皆さまのご要望に応じ、統計出版物/ホームページをご案内するサービスを始めました。どうぞ、お問い合わせください。

○国連資料検索ガイダンス

今回は5月11日(火)を予定しています。申込み要。

*問い合わせ先：

UNドキュメンテーション・サービス (UNDS)

Tel: 03-5467-1305

<http://www.unic.or.jp/un-ds/index.html>

**6月12日は「児童労働反対世界デー」
—家事使用人として働かされる子どもたち—**

6月12日の「児童労働反対世界デー」を記念し、国際労働機関（ILO）と児童労働の分野で活動するNGOが協力して、ユースからシニアまで広く一般の方々を対象とする児童労働についてのシンポジウムと写真パネル展を開催します。

世界では2億4,600万人もの子どもたちが十分な教育を受けられず、健康を損ない、基本的な自由を奪われて働いていると考えられています。特に、今年のグローバル・テーマである「家事使用人として働かされる子どもたち」は、人目につかない個人の家の中で働き、肉体的・精神的・性的虐待などの搾取を受けやすい環境におかれています。わずかな賃金や無報酬で働かされる場合が多く、学校に行けない場合もあります。

人権を無視され、危険にさらされるこのような子どもたちのことを、日本の私たちはどれだけ知っているのでしょうか？ 世界の子どもたちが直面している児童労働の問題を、皆さんも是非一緒に考えてみませんか。シンポジウムと写真パネル展の開催は以下の通りです。

● シンポジウム ●

児童労働と取り組む NGO の世界各地での活動を紹介

日 時：6月12日（土）午後1時～5時
場 所：ウ・タント国際会議場（UNハウス3階）
対 象：一般（小学校高学年～）先着250名まで
参加費：無料
申込み：氏名、年齢、連絡先（住所・電話番号・E-mail）
を明記の上、6月4日（金）までに下記まで。
ILO駐日事務所 Fax: 03-5467-2700 または
E-mail: wdcl@ilotokyo.jp



ダカール郊外で働く家事使用人の少女（セネガル）

● UNギャラリー写真展 ●

**児童労働にレッドカード！
～家事使用人として働かされる子どもたち～**

期 間：5月20日（木）～6月15日（火）
（日曜閉館）
時 間：午前10時～午後6時
場 所：UN ギャラリー（UNハウス1、2階）
入 場：無料



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp